

平成30年度学校自己評価 最終報告

海田町立海田南小学校

平成31年3月1日

HPに掲載しています。
ご覧下さい。

学校経営理念

- 子ども：「自分のよさが発揮でき、学習することが楽しいと感じることができる」学校
- 保護者・地域：「子どもを通わせてよかった、学校があってよかったと思える」学校
- 教職員：「持ち味が発揮でき、チームで動き、やりがいのある」学校

評価計画		自己評価 中間				最終				今年度の成果(○)と課題・改善(●)
ビジョン(めざす姿) 目標	評価項目(取組)	評価指標(目標値)		評価	中間結果補助指標	評価	最終結果補助指標		担当	
か	考えぬく頭 自ら考え、『見方・考え方』を豊かにし、深い学びをする児童	1	「課題発見・解決学習」に関する児童意識調査の肯定的評価の割合	80%以上 4 77.5%以上 3 75%以上 2 75%未満 1	4	「課題発見・解決学習」に関する児童意識調査の肯定的評価の割合は、77.3%であり、一昨年度から取り組んでいる授業改善が少しずつ進んでいる。	4 3 2 1	【課題発見・解決学習】に関する児童意識調査の肯定的評価の割合は、81.2%であった。【主体的・対話的で深い学び】の実現に向けて、授業改善が進んだ。	○児童実態に応じてカリキュラム・マップ等の質の向上を図ることで、授業改善が進んだ。 ●「深い学び」の実現に向けて、児童に育てたい力(根拠を明確にした発言など)を明確にしながら、更に質の向上を目指す。 ○他教科等との関連を図った道徳学習プログラムが整い、教材の準備や板書の工夫など事前の授業準備が充実したことにより、児童が学習のテーマに向けて深く考える授業改善が進んだ。 ●児童が友達と対話しながら多様な考えに触れたり、自分の考えと比べたりすることのできる授業づくりを進めていく。 ○学力調査の結果分析をもとに、各学年で課題に取り組んだ結果、基礎・基本の学力は、ほぼ定着できた。 ●30%未満の児童に対して、個別指導を行うことにより、基礎学力の定着を図る。 ○児童実態に応じた学習課題を毎日出し、提出期限を守るよう声かけを行い、「めあて」を意識した指導を行った結果、学校全体として、学習規律の徹底や家庭学習の習慣化に繋がった。 ●個別にはできていない児童もいるので、引き続き家庭と連携しながら声かけや支援を行い、習慣化と定着への取組を行う。 ○「新聞タイム」の指導方法や内容について教職員が共有化することにより、確実に「新聞タイム」を実施することができた。その結果、CRT学力調査国語の「読む領域」は、全国平均を上回った(南小76.9%、全国74.6%)。基礎学力の礎である「読む力」は育成されてきている。 ○親子で読書に取り組むことにより、家庭での読書の習慣化を図ることができた。 ●特に高学年の児童の取組を推進する必要がある。家族との本の読み方やファミ読にお薦めの本の紹介などをしていく。	
		2	日々の授業において児童が主体的に取り組む工夫をするともに、授業研究を通して、児童が深い学びをする課題発見・解決型の授業を行う。	考え議論する道徳の授業のチェックリストの項目の平均達成数	10個以上 4 8個以上 3 5個以上 2 5個未満 1	4	考え議論する道徳の授業のチェックリストの項目の平均達成数は6.5である。	4 3 2 1		考え議論する道徳の授業のチェックリストの項目の平均達成数は6.5であった。各学年部で話し合いながら、日々の道徳科の授業改善に取り組むようになった。
	3	各種学力調査(全国・NRT・CRT等)の結果を分析し、課題を見つけて取り組む。	各種学力調査(全国・NRT・CRT等)の正答率(通過率)が30%未満の児童の割合	0% 4 10%未満 3 15%未満 2 15%以上 1	4	全国学力テスト正答率が30%未満の児童の割合:国語 2%, 算数8%, 理科4%であった。 NRT正答率が%未満の児童の割合:2年0%, 3年6.1%, 4年0.9%, 5年2%	4	CRT学力調査の正答率30%未満の児童の割合:1年0%, 2年0.5%, 3年3.3%, 4年2.5%, 5年1%, 6年1.1%であった。		
	4	学びのための習慣と基礎・基本の学力の定着した児童の育成	保護者アンケート「学年に応じた家庭学習の時間と内容を行っている」の肯定的回答の割合	85%以上 4 80%以上 3 75%以上 2 75%未満 1	4	保護者アンケート「学年に応じた家庭学習の時間と内容を行っている」の肯定的回答は、83.2%	4	保護者アンケート「学年に応じた家庭学習の時間と内容を行っている」の肯定的回答は、83.2%であった。中間評価と比較すると、高学年において肯定的評価の割合が下がっている。(6年:82.7%→73.5%・5年:82.6%→82.3%・4年84.5%→78.8%)		
	5	継続した音読の指導に取り組み、聞く力、読む力の育成を図るとともに、児童の学ぶ意欲や活気のある学級づくりにつなげていく。	国語科やしんぶん(新聞・新文)タイム等を活用して継続的に音読の指導に取り組んでいる学級の割合	100% 4 90%以上 3 80%以上 2 80%未満 1	4	全学級において、継続的に音読指導に取り組んでいる。	4	全学級において、国語科の授業や新聞タイム等を活用して、音読指導に継続して取り組み、聞く力、読む力の育成を図ることができた。		
い	意気高い心 自らを律しつつ、友達と協力し、人や物や場を大切にしている児童	6	児童が積極的に読書活動を進めるような図書館教育、家庭での読書の推進、及び委員会や学級指導を行う。	ファミ読を月に1回以上行っている児童の割合	85%以上 4 80%以上 3 75%以上 2 75%未満 1	4	全学級において、月に1回ファミ読カードを集め、実施状況を把握したり、取組を紹介したりしている。	4 3 2 1	ファミ読を月に1回以上行っている児童の割合は81%であった。家族と共に読書活動に取り組むことができる本を選ぶことで、さまざまな種類の本に親しむことができた。	
		7	JAKを意識し、あいさつを自分からすすんで児童を育てる。	教職員・保護者・地域ボランティア・児童アンケートの肯定的回答の割合	80%以上 4 70%以上 3 60%以上 2 60%未満 1	4	肯定的評価は、79.9%で自分から先に挨拶する児童が増えているが、校内外で、教師以外の大人に挨拶をしない傾向がある。	4 3 2 1	○進んで挨拶をする児童が増えた。 ●シール配りや1万人挨拶などの取組期間が終了すると児童の挨拶の意欲が減退してきた。また、校外での挨拶が少ない、学級懇談会で保護者へ協力をお願いしたり、学校便りで挨拶の啓発を図ったりしていく。 ○どの学年も朝の会で歌うことは習慣化してきた。 ●帰りの会では、高学年は歌を歌ったり、リコーダーを吹いたりしてきたが、低学年は時間が足りずできないことが多かった。下校時間の調整をする必要がある。 ○職員のエニバーサルデザインの学級経営に対する意識が高まった。 特に教室環境の整備は、86%できていた。 ●低かった項目は、「分かりやすい板書」「児童の発言をオウム返ししない」で、達成率は50%だった。板書計画や発問については、学年部で研修するなどの対策が必要である。	
た	たくましい体 自ら心身の健康保持増進・安全に取り組む児童	8	音楽科で育てた声質や歌の姿勢を大切に、響きあう美しい歌声の児童を育てる。	音楽科以外学級で響きあう歌声(リコーダーを含む)で歌う回数	1日に2回 4 1日に1回 3 2日に1回 2 2日に1回 1 18個 4	4	朝の会では、全ての学年で取り組むことができたが、2回以上取り組むことは難しかった。	4 3 2 1	1日に1回ができた学級は100%であった。 2日に2回ができた学級は60%であった。	
		9	特別支援教育の取組を生かしたユニバーサルデザインの授業づくり、環境づくりを行う。	ユニバーサルデザインの学級経営チェックリストの項目の平均達成数	15個以上 3 12個以上 2 12個未満 1	4	「ユニバーサルデザインの学級経営チェックリスト」18項目の平均達成率は、13.6個	4 3 2 1	「ユニバーサルデザインの学級経営チェックリスト」18項目の平均達成率は、14.1個であった。	
		10	体力テストの結果(H29年度)を受け、体力の向上に向けた取組を行う。(サーキットトレーニング、体力づくりタイム、なわとび週間など)	体力テスト全国平均を超えている割合(各学年の全国平均超種目数の合計÷全体の種目数)	85%以上 4 75%以上 3 65%以上 2 65%未満 1	4	体力テストで全国平均を超えている割合(各学年の全国平均超種目数の合計÷全体の種目数)は56%(○握力・立ち幅跳び●長座体前屈・50m走)	4 3 2 1	各学年で重点課題に対する取組を行うことができており、前回の結果からの向上を図ることができていない。 ●体力テスト実施前に計測の仕方の確認を行う。	
		11	生活調べを年4回(6,9,11,1月)実施し、家庭と連携しながら生活リズムを確立していく。	生活調べで、朝ごはんに三大栄養素の緑を食べた児童の割合	80%以上 4 70%以上 3 60%以上 2 60%未満 1	4	生活調べで、朝ごはんに三大栄養素の緑を食べた児童の割合は、76.7%である。	4 3 2 1	○1月の生活調べに合わせ、朝ごはんレシピを配布した。 ●生活調べの取組を、他教科とも関連付けて、児童の意識を高めていく必要がある。	
みなぎる・みんなの力で 組織的に、かつ協働することで、活力ある教育活動を展開し、保護者や地域に信頼される学校	13	自分の身を自分で守る防犯、防災教室を実施し、安全に気づけた行動のとれる児童を育てる。	訓練後の児童の振り返りを生かした学級指導の実施状況の割合	100% 4 90%以上 3 80%以上 2 80%未満 1	4	各学級担任へのアンケート結果を実施。肯定的評価が94%である。	4 3 2 1	後半に行われた訓練でも同様に、児童の振り返りシートを制作し、各担任に学級指導に生かすよう2に声をかけた結果、肯定的評価が100%となった。 ●職員の研修を計画的に行う。		
		家庭との連携を図り、児童の学校での様子を伝えたり、保護者の思いや願いを聞いたりすることを通して、きめ細やかな指導を行っている。	保護者アンケートにおいて「信頼される学校」に関する項目の肯定的評価の割合80%以上。	90%以上 4 80%以上 3 70%以上 2 70%未満 1	4	学校評価保護者アンケートにおいて、「教職員は素早く丁寧に対応し相談しやすい」の肯定的評価が94%、「海田南小学校の教育に満足している」の肯定的評価が96%であった。	4 3 2 1	○担任だけの対応にならないように、組織で対応したことが、保護者の安心・信頼を得ることにつながった。 ○担任は、児童の学校での様子を、分かりやすく保護者に説明した。 ●連絡・相談・報告を丁寧に行い、早期解決を行う。		
		特別活動、生活科、総合的な学習の時間を中心に、計画に基づき、地域を知り、地域の活性化につながる学習を実施する。	校外学習や、地域の方をゲストティーチャーとして招き教わる授業を学期に1回以上、年間3回以上設定する。	3回以上 4 2回 3 1回 2 0回 1	4	総合的な学習の時間や生活科を中心に、地域に出向いての学習やゲストティーチャーを招いての学習やゲストティーチャーを招いての授業を積極的にを行い、6学年中、5学年で3回以上実施した。1年生は、3学期に予定している。	4 3 2 1	総合的な学習の時間や生活科を中心に、地域に出向いての学習やゲストティーチャーを招いての授業を積極的にを行い、全学年年間3回以上100%実施できた。児童アンケート「住んでいる地域の行事に進んで参加しようと思う」「そう思う」と答えた児童が48%増えた。「地域のために自分ができることをしたい」「そう思う」と答えた児童が3%増えた。		